

第2章 handling 五体満足ハンドリング

両手両脚を自由に思い存分に使ってボールを展開したらラグビーがもっと面白くなることは確かである。無策なぶつかり合いが減る結果、プレーが継続し、意外性の増加とともに、プレーする者も見る者も楽しさが倍加するだろう。

handling = Pass ではないことは言うまでもないことです。第7条にも、ボールを与えるという表現がなされていますが、手渡すのも重要なハンドリングであり、ボールを地上においたり、そのボールを押ししたりするのも手で扱っているからハンドリングです。1975 Coaching Sching には Handling を、passing, receiving, others と分類しています。Others には、falling on ball, picking up ball となっていますが、現在ならもう少し付け加えられるべきでしょう。

簡単な質問があります。

質問1

「あなたは片手でボールをパスしたことがありますか」 (はい いいえ)

はい、の場合、

「それはオーバーハンド、アンダーハンドまたはサイドハンドですか」( )

質問2

「あなたは右の方へ向いていて左方向へボールをパスしたことがありますか」

「左へ向いて右も同じことです」(はい いいえ)

はい、の場合

「それは片手・両手ですか」( )

考察。質問1及び2 ともにいいえの答えが圧倒的に多いということに驚かされます。継続の重要性が叫ばれても、限定的で偏った展開しかなされていないということです。ラグビーはそんなものと決めてかかっているから進歩がないのです。Handling プレーの代表であるパスについて考え直さなければならないことが多いのです。

昔の話から入りましょう。ボールを蹴るだけのフットボールでボールを持って走るようになってパスがプレーとして入ってきました。その時の状況次第で、適当なパスが行われました。勝敗を争い損得を考える過程で、ボール処理に見合った典型的なパスについての概念ができあがり、指導法として、パスはボールの持ち方からはじまり、腕の振り方、手頸の使い方があって、ボールは回転することなく投げられることが良とされていました。

40年ほど前、即ち現代ラグビーの見直しに伴って、パスは、本来味方のプレーヤーにボールが渡ればよいのであって、典型的なパスに限らず、方法は問題ではないという結論から、いろいろな方法によって、ボールがタイムよく展開可能な方向になげられることが肝要であるという事になりました。当然といえば当然だし自然なことです。

これまでにどれだけの種類のパスを試みたか自分自身考えて下さい。

ラグビーを見直して、飛躍的發展を期して作成された、現代ラグビーのバイブルといわれている The Guide for Coaches 1966 によると次のように整理されている。

<b>THE BASIC PASS</b>	
<b>FEED PASSES</b>	<b>The screen pass</b>
	<b>The switch pass</b>
	<b>Special feed passes for the scrum-half</b>
	<b>STRAIGHT PASS</b>
	<b>PIVOT PASS</b>
	<b>DIVE PASS</b>
	<b>DIVE PIVOT PASS</b>
	<b>TORPEDO THROW</b>

まず、いろいろなパスがあることを示し、興味と関心をひきました。方法や要領の指導はごく簡単にして、個性と意欲を大切にしていました。

その流れをうけて、基本的教科書 Better Rugby 1973 が出版されました。個人の技術について、All Skills to Everyone という題で書き始められていることの意義は大きいです。次のように提示されている。

Passing	Orthodox pass
	S.H pass (standing, dive, reverse, pivot )
	Switch pass
	Screen pass
	Dummy pass
	Line-out pass
	Unorthodox pass (eg, above head )
Throw-in	Underarm
	Bowling overarm
	Torpedo overarm

COACHING COMMITTEE もコーチング大綱を提示して浸透を図りました。委員会による Coaching Scheme 1975 ~ 76 によると Handling の項目に、次のようになっている。

Passing	Receiving
Orthodox lateral pass	Orthodox lateral pass
Screen passing	Screen pass
Line-throw	Line-out catch
Distribution from line-out	From kicks
Scrum half passes	
Scissors (switch)	
Dummy	
Slip(Maul)pass	

3つの指導書のそれぞれに少々差はあっても、一連のもので一貫しています。ラグビーの普及発展のために、「すべての技術はすべての人に」ということが基本理念になっています。以前は、典型的なパスやシザーズにおけるものなどのテクニック（単なる技）として特殊なもの、専門的なものと考えられていたのを、全員にしかもスキル（相手と対応する技）として身につけるべきものとししました。パスは形が大切でなく、それ以上に相互の状態やタイミングが重要で、すべてボールの展開の可能性如何にかかっているとしました。ダイビングパスが盛んな時期がありましたが、あまり見られなくなりました。効用の理解と発想がないままの真似では単なる流行に終わってしまうのです。

スイッチプレーが非常に流行していますが、効用やスイッチパスの研究・指導はあまり進んでいません。全て結果がよければそれでよいというものですが、偶然の結果でなく、理詰めの結果であることによって、必要な時に有効に実行してよい結果をうみだせるのです。一場面・一時点で最高のパスはただ一つしかないのです。それを駆使できるように準備しておくことが肝要なことです。

少し飛躍するようですが、キックも足によるパスと受け止められます。パスは前方にはできませんが、キックはできます。相手を越えてボール移動が可能で、展開継続の範囲をグット広めてくれます。

結論的には、五体を満足に使うってボールをハンドリングしていないということです。柔軟で豊かな発想を駆使して、五体を満足に使うプレーが最も有効で、面白いラグビーの原動力で、五感をフルに働かせることも要件の一つです。旺盛な発想力と柔軟な発想転換とによって可能になり、それは究極的には、instinctive にプレーすることに繋がる全身的なもので、ラグビーは思いきり自己表現できる、楽しい競技なのです。ボールの持ち方やパスは絶対に後方へしなく

てはならないなどは特別に取り上げなくてもよいことです。チームが獲得したボールが handling によって後退することになっては実につまりません。最近になって言われ出したフラットパス・フラットラインについて確認しておきましょう。ボールを前に投げてはいけないことは衆知のところですが、前進したいときに最も前の位置で受けようとするならば、真横のパス即ちフラットパスがよいということになります。真横のパスが最高なのです。その位置が防御に近いのは当然のことで、そこでどう対処するかが技の使いところで、面白さなのです。フラットパスが考えだされ試みられてから 40 年近くなって広く取り入れられるようになるのは、いかに BK ラインの型が一定してしまっていたかということです。地動説を唱えて人権を喪失して回復するのに長年かかったということと比べてみても、世の中の変化の様子が分かります。ラグビーの変遷も面白いものです。